

第1回環境影響評価マニュアル検討部会に係る委員意見の概要と対応(案)

2012/12/14

資料-1

1)環境保全措置

意見者	口頭/文書	対応ページ	意見の概要	対応(案)
菊地部会長	文書意見 口頭意見	p.2	図1.1-1の最下段において、「事後調査結果の公表・活用」から「環境保全措置の実施」に戻る破線の中に「追加措置の検討」のような文言を入れてはどうか。	「追加措置の検討」を追加した。
北川委員	口頭意見	目次 p.5	表題の環境保全措置の「検討立案」は違和感がある。「必要性」では。	「立案」→「必要性」に修正した。
由井委員	口頭意見	p.6	解説2①3)に砂浜は入らないのか。	(修正なし) 自然海岸等の中で対応する
由井委員	口頭意見	p.8	生物多様性オフセットが唐突である。p.8の下に「最近はこのような考え方がある」という内容の一文を入れるとよい。	生物多様性オフセットについて一文追加した。
菊地部会長	文書意見	p.10	大気質関連の措置項目の並び順が雑然としているので、時間軸に沿うなど、整頓が必要(他分野についても要検討)。	「計画」「工事中」「供用後」の三段階に分けて整理した。
菊地部会長	文書意見	p.10 15行	「環境施設帯」の名称では、具体的な内容がわからない。	「環境施設帯(植樹帯、副道、歩道等)」と括弧書きを記載した。
由井委員	口頭意見	p.12④低周波音	・アセス法の改正に伴って、条例でも風力発電事業が追加されるのではないかと考えられるが、風力は考えなくて良いのか。	「④低周波音」に風力発電を想定した環境保全措置を追加した。
			・この事例集になくとも風力の対象事業があれば個別事業で保全措置を対応するのか。	(修正なし) 個別事業で対応する運用となる
西城委員	文書意見	p.13 ⑧地形・地質	地形・地質の2番目「土地の安全性」とは何を意味するのかわかりにくい。地盤の安定性のことか? よりわかりやすい表現に変更した方がよい。	「土地の安全性を低下させない」→「斜面の安定性や土砂流出の防止に配慮した」に変更した。
菊地部会長	文書意見 口頭意見	p.13⑨地盤	地盤の安定化(特に盛土部分)を速めるために水抜きを十分にやるような項目(表現)がほしい。	「⑨地盤」にバーチカルドレーン工法による安定化を追加した。

意見者	口頭/文書	対応ページ	意見の概要	対応(案)
菊地部会長	文書意見 口頭意見	p.17 p.資料-9 p.資料-67	地球環境関連では温室効果ガスのみが取り上げられているが、他の項目を追加してはどうか。 (例) 生物多様性オフセット, カーボンオフセット, 省エネルギー, エネルギー源の選択 など	「⑮廃棄物」及び「⑯温室効果ガス」に環境保全措置を追加した。 (事例集) 事例集には以下の2例を追加した。 ・バイオ燃料等代替エネルギーの活用 ・カーボン・ニュートラルを取り入れた地球温暖化対策
菊地部会長	文書意見 口頭意見	p.20 3-4行 p.27	p.18 3-4行「～時系列に沿って段階的に整理」。ここでは計画, 方法書, 準備書, 評価書のステップを指していると思われるのに対して, 24p.25p.にある「検討を段階的に」は複数案から絞り込んでいくプロセスを意味していると会議の席で説明があった。それぞれについて、中身が明確にわかるような表現になるよう検討が必要であろう。	(p.20) 2.1本文及び解説1を修正した。「段階的」という表現を削除し、p.27以降の「段階的」との区別を図った。 (p.27) 「段階的」については、本文説明の一部を抜き出し【解説3】として囲んだ。
由井委員	口頭意見	p.20	・事業の計画段階での配慮事項の検討経緯や内容は方法書に示すということではなかったか。であれば方法書に書くと明記すべきではないか。 解説1の中で、「準備書、評価書に記載」となっており方法書が抜けている。	「解説1」最下行に「方法書」を追加した。
菊地部会長	文書意見	目次 p.22	「2.1 節は開始前, 2.2 節は開始後」であることが明確にわかるような表現にしてほしい(タイトルの工夫など)	2.2タイトルに「環境影響評価手続開始後の」を追加した。
菊地部会長	文書意見	p.22	2.2節の冒頭に「予測結果」の語があることに違和感。予測結果は準備書段階で初めてわかることなので、この場所に出てくるのはおかしいのではないか。次の「段階的検討」と齟齬。	2.2冒頭を修正した。
菊地部会長	文書意見	p.23	解説2。「動物に関する地域特性」→植物, 生態系も追加	動物・植物・生態系に限定されないため、「動物に関する」の部分削除した。
由井委員	口頭意見		解説2の中で、「動物に関する地域特性」とあるが、動物だけはおかしい。	
由井委員	口頭意見	p.25	下から二行目の生物多様性国家戦略の日付がおかしい	9月に閣議決定された最新の生物多様性国家戦略の名称・年月に記載・訂正した。
菊地部会長	文書意見	p.26	枠内5項。文章中に「及び」「並びに」「又は」の助詞が多く、読みにくい。	(修正なし) 技術指針に基づく表記のため

意見者	口頭/文書	対応ページ	意見の概要	対応(案)
平野委員	口頭意見	ケーススタディ p.30-32 p.資料-10 事例5	大気質(道路事業)、地下水の水位(道路事業)などは対策が現実的でない。遮音壁も騒音にはいいが景観には良くない。内容を実際に即したものにしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 大気質:掘割→平面道路に変更した 地下水位:(修正なし:平面では水位低下しない) 遮音壁事例:「○その他」に景観・日照への注意を追記した。
北川委員	口頭意見	事例集表紙	事例を紹介する前にコメントを入れるべきである。掲載されている保全措置を行えばいいのではなく、「こういう例もあるので、実際にはやり方を調べて取り入れられたい」というスタンスを示す。	事例集に表紙をつけ、コメントした。
由井委員	口頭意見	事例集表紙 p.資料-1 附表1 各事例:右上に表示	<ul style="list-style-type: none"> 回避・低減・代償のどれにあたるかを追記すべき。 事例集の前に一覧でコメントをつけるとよい。(掲載されているものが全てではない、B/Cの面からは検討が必要、最近は行われない等) 	<ul style="list-style-type: none"> 事例集に表紙をつけ、コメントした。 回避・低減・代償の区分を一覧表に追記した。
平野委員	口頭意見	p.資料-1 附表1 各事例:右上に表示	保全措置の検討の流れが羅列されている。計画段階、工事中、供用後という段階ごとの整理をし、利用する側に立って作り込んでいくほうがよい。その上で抜けているところが明らかになれば補うとよい。	事例について、計画、工事中、供用後の各段階で実施されるものに整理した。 →今後、並べ替えを行う予定
平野委員	口頭意見	事例集表紙 p.資料-37 事例33 p.資料-44 事例40	掲載事例の中には、専門家の中で失敗例とされているものが入っている。環境影響の面からは望ましいことでも、事業としての費用対効果にそぐわないもの、最近はここまでやらないというものがある。(例:No.33、No.40)	事例集は多様な環境保全措置を提示する考え方とし、事業者が導入するにあたっては他の環境要素や経済性も含めた検討が必要な旨を事例集表紙でコメントした。 <ul style="list-style-type: none"> 事例No.33(オーバブリッジ)は小動物用の簡易なものとした。 事例No.40(カワセミ営巣ブロック)は事例を削除した。
由井委員	口頭意見	p.資料2~5 附表2	<ul style="list-style-type: none"> 低周波音が環境要素に挙げられているのに、●印がついてないのはおかしく感じる。 低周波音は風力関係でこれから出てくると思われる。 	(修正なし)技術指針に基づく表のため
西城委員	口頭意見	p.資料-26 事例24	実施に先立って把握すべき事項の「土地利用の履歴」は過去何年把握すべきか。一概には書けないが、実際に行う場合には何年把握すべきかが必要になる。	(修正なし)とくに何年といえないため

意見者	口頭/文書	対応ページ	意見の概要	対応(案)
西城委員	文書意見	p.資料-27 事例25 p.12 ⑧地形及び地質	⑧地形・地質の1番目の例として、事例No.25が挙げられている。そうであるならば、事例No.25の「実施に先立って把握・検討すべき事項」として、「地形及び地質の特性」を挙げておくべきではないか。No.25の事例で、地形や地質の特性がどのように考慮されているのかがわからない。	「地形及び地質の特性」を追加した。 p.13⑧の「地形及び地質の特性を損なわない造成計画」の後ろに「(変更面積の最小化)」と括弧書きを追加した。
平野委員	口頭意見	p.資料-28 事例26	これは地盤全体の安定にはならず、表土だけの効果であって、少なくとも斜面そのものに効果はない。	事例の表題を内容を適切に表すよう「砂防樹林帯の保全・育成(山腹工)」と修正した。また、防災・安全のための斜面の安定保持は環境アセスで取り扱う範囲を超えるため、「期待される効果：○土砂災害の防止」との記載を「斜面の安定性の保持」に修正した。
西城委員	口頭意見	p.資料-28 事例26	実施に先立って把握すべき事項に「周辺の地質状況」とあるが、地質も必要なので、「周辺の地形及び地質の状況」としてほしい。	「周辺の地形及び地質の状況」と修正した。
由井委員	文書意見 口頭意見	p.資料-34 事例30	出典の下に「津軽ダムのクマタカ」を入れる。	「津軽ダムのクマタカ」を引用した。
由井委員	文書意見	p.資料-37 事例33	リス、ヤマネ目の簡易なオーバーブリッジを引用すること。	簡易なオーバーブリッジを引用した。
由井委員	文書意見	p.資料-42 事例38	実施例の文章に「高圧ナトリウム灯の採用」とあるが、下段の表を見ると、「低圧ナトリウム灯ランプ」が最も有効になっているので採用する。	「高圧」の文字を削除した。 (トンネルや高速道路でのナトリウム灯の使用は一般的であるが、低圧または高圧の選定に関しては経済性、視認性、出力などから使用箇所ごとに適したものが選定されている。本事例集の主旨からは「水銀灯に比べてナトリウム灯はそもそも誘虫性が低い」ことから、高圧・低圧を区別しない記載とする。)
由井委員	文書意見	p.資料-44 事例40	事例40はそのままでも良いが、単に「土壁を作るだけでも営巣に利用する」ことを追加する。	事例No.40(カワセミ営巣ブロック)は事例を削除した。
平野委員	口頭意見	p.資料-48 事例44	事例No.44の標識は政令違反である。	No.44警戒標識は国交省の正式な標識を掲載した。

2) 事後調査

2012/12/14

発言者	口頭/文書	対応ページ	意見の概要	対応(案)
北川委員	口頭意見	p.7-9	丸数字は「事後調査を行う理由①～④」で一貫して使用しているので、p.8の丸数字は記号を分けるなど、全体の中で符号の使い分けをしたほうがいい。	ローマ数字に修正した。
平野委員	口頭意見	p.21	「地盤の安定性」の定義は何なのか。斜面、軟弱地盤、平場、盛土といろいろあり、それぞれで異なる。ひとまとめにするのであれば、丁寧な書き分け方をする必要はある。	「地盤の安定性（地すべり、斜面崩壊、液状化、地盤陥没等）」と括弧書きを追加した。 ※『大気・水・環境負荷の環境アセスメント』によると、「開発行為による土地の安定性の変化」として地すべり、斜面崩壊、液状化、地盤陥没等としている。
西城委員	口頭意見	p.21	地形地質は「長期間の調査」なのに、追加された地盤の留意点では「供用後3～5年」となっている。書き分けた理由があるのか。特にないのであれば統一したほうがよい。	「長期間」で統一した。
由井委員	口頭意見	p.31	・6.6その他(2)は事業者側の検討会のことか。 ・「専門家の氏名は可能な限り明らかにする」とあるが、個々の事情により難しい面があるのではないか。	(修正なし) 了承を得た上で可能な範囲で明らかにする
北川委員	文書意見	p.資料-3	表2-1 環境影響評価項目における事後調査項目 下から4つ目の行、「景観」の幅が狭く、表記がかけている。	表の幅を修正した。
由井委員	口頭意見	p.資料-3	低周波音は風力で関わってくるので準備したほうがいい。	(修正なし) 低周波音に係る事後調査事例については、風力発電所の条例対象事業への追加後、改めて事例を収集し、マニュアルに追加するものとする。
由井委員	口頭意見	p.資料-20 以降	表3.4.2-1の供用後の期間の欄記載内容について、新しい「猛禽類保護の進め方」では、オオタカの事後調査は3年である。国の改訂予定に合わせて見直し、全編を通し確認し修正すること。	オオタカの事後調査を3年に修正した。
北川委員	文書意見	p.資料-21	下から3行目「おこなう」がひらがなです。	漢字に修正した。